

A 生活科における育成をめざす「資質・能力」

育成をめざす「資質・能力」

◎ **具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することをめざす。**

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる。

※ 別添7-1「生活科において育成を目指す資質・能力の整理」(別添資料P.41)及び7-2「生活科における教育のイメージ」(別添資料P.42)より作成

(1) 知識・技能の基礎 (2) 思考力・判断力・表現力等の基礎 (3) 学びに向かう力・人間性等

資質・能力を育成する学びの過程

生活科における学習活動は、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いを持ち、具体的な活動や体験を行い、直接対象と関わっていく過程を大切にします。一人一人の児童が能動的に活動することや、体験活動と表現活動とを繰り返していくことで、学びの質を高めていくことが重要です。

生活科では、身近な人々や、社会及び自然など、対象と直接関わる活動や体験をすることが大切であると示されています。生活科のねらいは、それらの活動や体験の中から、気付きを得て、自立への基礎を養うことです。また、幼児教育において育成された資質・能力を、低学年教育として滑らかに連続、発展させ、中学年以降の学びに接続していくことが大切です。



各学校で考えてみましょう

▶ 別添7-1 「生活科において育成をめざす資質・能力の整理」を読んで具体的な単元目標の設定をしてみましょう。

B 生活科における「見方・考え方」

見方・考え方

生活科では、具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然を学習の対象として扱います。その対象を自分との関わりで捉えることとともに、人々、社会、自然を一体として捉えることが特徴です。学習対象を自分との関わりで捉え、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することをめざしています。

【身近な生活に関わる見方・考え方】

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること

幼児教育による「見方・考え方」は、身近な環境に主体的に関わって、様々な体験をすることを通して、広がったり、深まったりしていきます。生活科による「見方・考え方」も、身近な人々や社会及び自然との関わりを通して育まれます。生活科の体験を通した一体的な学びは、総合的な学習の時間における各教科等の「見方・考え方」を生かした学習につながっていきます。生活科は、幼児期、小学校低学年、中学年だけでなく、その先に更につながっているのです。



なお、学びの過程において困難さを感じる児童・生徒への対応も必要です。

◇ 指導の工夫、手立ての例については、こちらまで 

[クリック](#)

各学校で考えてみましょう

▶ 対象を自分との関わりで捉え、身近な生活に関わる見方・考え方を育てていくための活動や体験を通した学びの過程を実現していくことが大切です。具体的にどのような学びの過程が考えられるでしょうか。

C 生活科における教育内容の改善・充実

生活科における資質・能力を育む学びの過程



生活科の学びの過程は、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いを持ち、具体的な活動や体験を行い、感じたり考えたりしたことを表現していくプロセスになっています。

体験活動と表現活動が繰り返されることで、児童の学びの質が高まっていきます。

資質・能力を育成するための生活科の内容

学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
(1) 学校生活に関わる活動	(4) 公共物や公共施設を利用する活動	(9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動
(2) 家庭生活に関わる活動	(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動	生活科では、「自分と人や社会とのかかわり」、「自分と自然とのかかわり」、「自分自身」の3つが内容構成の基本的な視点です。
(3) 地域に関わる活動	(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったり などして遊ぶ活動	
これらの活動を通して学びます。	(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動	
	(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動	

多様性が尊重される社会の視点の更なる重視

身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことを、今後、さらに重視していく必要があります。

健康・安全の視点からの充実

教育課程全体で防災を含む安全教育を系統的に行う必要があります。生活科においても健康・安全の視点からの教育内容の充実を図ります。